

No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
206	漏えい	1	10	1	和歌山県	なし	トンネルを通過している配管から硫酸がミスト状に流出。漏洩量は不明。トンネル内へ進入できないので、配管の縁切りをし、坑口両端及び排水溝に土嚢を積み拡散防止処理を完了(20:17)。
207	漏えい	1	10	3	神奈川県	なし	配管を洗浄中の水がバルブ操作を誤り苛性ソーダのタンク内に流入し苛性ソーダがオーバーフローしたもので、苛性ソーダタンクから液体約500リットルが防液堤内に漏洩。タンク等の損傷はなく漏洩した苛性ソーダは防液堤内に収まっている。
208	漏えい	1	10	3	神奈川県	なし	製造所第1工場の潤滑油グリース調合充填設備のスロップピット(約1m×1m×1m)から、潤滑油約20リットルが流出した。漏洩は停止。漏洩範囲は施設内に留まっており、海上への流出なし。吸着マットにて漏洩物は回収済み。負傷者等なし。
209	火災	1	10	6	千葉県	なし	建物外の大型トランスが燃えたもの。同日18:47鎮火。
210	火災	1	10	6	北海道	軽傷1名	硫黄回収装置の硫黄を回収中に、コンクリート製のピットに貯めるための配管上にある蓋から硫黄が漏れ、着火した。公設消防の出動有り。2時35分 公設消防にて鎮火確認。
211	火災	1	10	6	北海道	なし	転炉を傾ける速度を調整する減速機付近から何らかの理由により出火したもの。(詳細調査中)公設消防の出動有り。
212	漏えい	1	10	9	茨城県	なし	事業所内での化学物質(ハロゲンガス・臭素)の漏洩事故。同日7:05漏洩終息。詳細は調査中。
213	漏えい	1	10	9	千葉県	なし	エアレリーザーより灯油が約2400リットル漏洩し、海上へ若干漏洩したもの。漏洩は停止し、同日15:38処置完了。
215	火災	1	10	10	愛知県	負傷者1名	高炉1側鑄床1号残銑樋で残銑抜き(のろに酸素を吹き付けて融解させる)作業を行っていたところ、のろが飛散して耐熱手袋を焼損貫通し、手袋内に充満していた酸素により手袋内に火災が広がり火傷を負ったもの。
216	漏えい	1	10	11	愛知県	なし	屋外タンクの蒸気配管から重油が約600L漏えいした。漏洩は防油堤内に収まり、海への流出はなし。
217	火災	1	10	10	愛知県	なし	製品(鑄造品)の熱処理中に熱処理炉の一部から出火。消火器1本で消火。建物の被害なし。
218	漏洩	1	10	13	神奈川県	なし	屋外タンク貯蔵所(フローティングルーフ)のタンク浮き屋根上及びタンク周辺側溝に、油混じりの雨水が約10リットル程度漏洩したもの。施設外への漏洩はなし。浮き屋根上及びタンク周辺側溝の漏洩は吸着マットにて同日12:28回収済み、10月15日公設消防による現地調査を行い、漏洩継続の事実なし。漏洩は停止。漏洩の海上流出なし。
219	漏洩	1	10	13	神奈川県	なし	鉄骨造6階建て建屋の屋上に設けられた変圧器(絶縁油630リットル入り)に、強風で煽られた配管用歩廊(鋼製ステージ1メートル×1メートル)がぶつかり、変圧器フィン部が破損し絶縁油470リットルが漏洩したもの。屋上から排水管を通り地上の排水ピットに流出したが、海上への流出はなし。消防隊車両1台4名出場。自衛消防組織36名出場。消防隊が施設に到着し、火災危険等の有無及び漏洩している油の種類について調査した。漏洩は停止しており、調査及び安全管理を実施した。同日3:21処理完了。
220	漏洩	1	10	12	神奈川県	なし	ポリエチレン反応器下流の圧力コントロール弁に使用される作動油(制御用)が約330リットル当該弁部分からフロアーに漏洩したもの。事業所側により装置を停止し、吸着マットにより処理。翌10月13日0:10処理完了。消防隊車両1台4名出場。自衛消防組織7名出場。消防隊が施設に到着し、火災危険等の有無及び漏洩している油の種類について調査した。漏洩は停止しており、調査及び安全管理を実施した。翌13日0:10処理完了。
221	漏洩	1	10	12	神奈川県	なし	危険物製造所(アルコール製造装置)の保温材で被覆された供給管(1.5インチ)からエタノール(第4類アルコール類)が漏洩したもの。計器室において装置の停止後、配管内の液抜き(約30L)を実施。また、防油堤内排水口への流出防止及び吸着マットで処置した。(漏洩量約500~600L)
222	漏洩	1	10	14	広島県	なし	一般取扱所において、合成樹脂の製造に必要な硫酸を屋外タンクから施設内のストックタンクへ受け入れていたところ、自動弁の液漏れにより弁が完全に閉止しなかったことにより、当該ストックタンクから硫酸がオーバーフローし82.5L漏えいした。本漏えいは施設内のタンク周辺床面に設置された防液堤内で留まっており施設外への漏えいなし。

No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
223	火災	1	10	15	神奈川県	なし	建屋内電源ボックスの周囲が黒く変色。消防隊車が鎮火確認を行い。15日8:20処置完了。
224	漏洩	1	10	15	千葉県	なし	60tタンク容量33.2t。穴が2か所開いており、漏えい箇所は真ん中より少し上である。現在も漏えい継続中(17:08分現在)濃硫酸のタンクに穴が開き漏えい。
225	火災	1	10	16	山口県	なし	屋外タンク貯蔵所変更工事のため、シクロヘキサンにより当該工事箇所の洗浄を行い、その際に使用したフレキシブルメタルホースを仮置きしていたところ、含有していたブチルリチウムが自然発火し、周囲の草に燃え移ったもの。発見した従業員が消火器で消火した(同日13:22消火完了)。
226	火災	1	10	16	神奈川県	負傷者1名	ラテックス製造施設において、冷凍機から出火。(冷凍機に分電盤から出火したもの) 同日16:58鎮圧、同日17:28鎮火。
227	漏洩	1	10	17	神奈川県	なし	保温配管から重油が漏洩したもの。漏洩は陸上に重油630L。海上へは約26cc流出。海上の重油は拡散処理済み。
228	火災	1	10	17	広島県	なし	炭素繊維工場(非危険物施設)内に設置された炭素繊維製造炉内循環ファン駆動用軸受け部(炉外部)において何らかの原因により出火した建物火災。火災発見後、初期消火により延焼はなし。原因は調査中。
229	漏洩	1	10	17	千葉県	なし	ローリー積場の9Bレーンで移動タンク貯蔵所(20KL被牽引車)に軽油を積み込み中、第4室ハッチから12~13Lオーバーフローしたもの。事業所所員によりドレンホースからペール缶で回収。
230	火災	1	10	19	神奈川県	なし	自動ラック倉庫内の電源コードが出火、燃えたもの。
231	漏洩	1	10	23	神奈川県	なし	硫黄船出荷設備(棧橋の一般取扱所)棧橋から船舶に硫黄を出荷する作業中に、ローディングアームのフランジ部分から船甲板に硫黄(約260kg)が漏えいしたもの。
232	漏洩	1	10	24	神奈川県	なし	冷却塔の潤滑油450Lタンクから400Lが地面及び側溝に流出したもの。
233	漏洩	1	10	26	神奈川県	なし	屋外タンク貯蔵所において、点検作業後バルブの閉め忘れによりA重油が漏洩したもの。同日11:45から同タンクへ張り込みを開始、その後の現場巡視中に、タンク水切り弁から油漏洩を発見した。タンク水切り弁が2回転開になっていた。発見時に水切り弁を閉止し漏洩は停止した。漏洩したA重油は防油堤内に漏洩しているが、海上漏洩なし。漏洩量等調査中であるが、事業者側のバキュームによりA重油回収した。同日14:06処理完了。同14:21消防撤収。
234	漏洩	1	10	26	福島県	軽傷1名	巡回中の従業員が、硫酸の屋外貯蔵タンク(容量3,000kL)のドレンバルブ付近から硫酸が噴き出しているのを発見した(10月26日14:00)。タンク内に残存していた約1,900kLの硫酸(濃度98%)のうち、約934kLの硫酸が防液堤内に漏えいしたもの。当該タンクから別のタンクに約966kLの硫酸をポンプで移送済み(10月27日10:00移送完了)。現在、約934kLの硫酸が防液堤内に滞留している状況で、回収中。漏えいの対応をしていた5名の従業員のうち、1名が防液堤内の深みに足を取られ、長靴内に硫酸が入り込み、右下股を化学熱傷した。 ■本日(10/28)18:30現在の情報 本日13:00から、防液堤内に溜まっている硫酸を産業廃棄物処理業者のタンクローリーに回収し、別のタンクに移送中(現在も作業継続中)。処理期間は、約20日程度を要する見込。処理期間中の保安対策については、検討中。
235	漏えい	1	10	26	愛知県	なし	デイタンクからボイラーへ接続されている配管からA重油が10L程度漏えい。敷地外への漏えいなし。漏れた配管の前後を遮断。
236	漏洩	1	10	28	神奈川県	なし	工場・潤滑油総合荷造場において、荷降ろしの際ドラム缶を地盤面に置いたとき、ドラム缶の地板(底板)に小石が挟まり、約10mmの穴が開き潤滑油が約100リットル漏洩したもの。河川等への流出はない模様。
237	火災	1	10	28	大阪府	なし	アルキレーション装置からイソパラフィン等のアルキレートガス及び液体が漏洩した。漏洩量は調査中だが、現在漏洩は停止している。火災の発生なし。現在、原因調査中であるが、停止していた施設のスタートアップ時に、バルブ操作を誤ったとの情報がある。漏洩物は危険物以外に高圧ガスの可能性もあり、適用法についても調査結果により決定する。
238	火災	1	10	28	大分県	なし	発電所の残留塩素測定装置(冷却水の塩素濃度を測定する施設)建屋内の制御盤が一部焼損。焦げた後を発見し報告。報告時は既に鎮火した状態。
239	漏えい	1	10	29	大阪府	なし	ガスタービン発電所内ガスコンプレッサの制御油(潤滑油)が約50L漏洩。

No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
240	火災	1	10	29	山口県	なし	NSPタワー制御室の送風機用速度制御装置内のトランスから白煙が上がり、工場内のCO2消火器1本を使用して消火したものの。
241	火災	1	11	1	愛知県	なし	コークスを運搬する汽車の運転席付近から火災。人的被害は確認されていない。
242	その他	1	11	1	兵庫県	軽傷2名	停電があったため、化学繊維を製造する工程で8%希硫酸貯留槽のポンプが止まり希硫酸が流出した。配管のバルブを閉めるため作業員が現場へ行ったところ、希硫酸中に含まれる硫化水素により2名が負傷(中毒症)。負傷者は病院に搬送し意識はある状態。
243	漏洩	1	11	1	岡山県	なし	屋外タンク貯蔵所(容量108,000kL)に付属する配管の通気管にて、付属する配管の通気管から重油の漏えいを確認。(漏えい量 83リットル)なお、防油堤内に留まっており、場外への流出なし。
244	漏洩	1	11	3	神奈川県	なし	屋外貯蔵タンク(容量200KL)側面の地上から高さ約20センチメートルの位置に直径約1センチメートルの穴が開いており、防液堤外へ硫酸約50リットル漏洩。救助隊の検知活動により消防警戒区域及び進入統制ラインを設定。事業所職員により漏洩した同タンクの残量を別タンクに移し替え、消防隊員とともに防液堤外に流出した硫酸を乾燥砂等で処置した。11月3日5:54処理完了。
245	漏洩	1	11	4	岡山県	なし	常圧蒸留装置で製造した重油を屋外タンク貯蔵所へ送る配管の通気管から重油の漏えいを確認。(漏えい量 127リットル)なお、重油は防油堤内に留まっており、場外への流出なし。
246	火災	1	11	5	兵庫県	なし	ドラムドライヤー内で肥料の乾燥作業中に出火。火災に気付いた従業員が消火器を使用して消火した。
247	漏洩	1	11	5	岡山県	なし	屋外タンク貯蔵所(許可容量44,000L)払出しポンプ付近の配管からグリセリンの漏えいを確認。(漏えい量 800リットル)なお、グリセリンは防液堤内に留まっており、場外への流出なし。
248	火災	1	11	7	三重県	なし	事務所敷地内にある仮設事務所内のビニール製ゴミ袋を焼損。作業員が消火器にて消火。
249	火災	1	11	12	山口県	なし	パイロットプラント(コピー機用トナー原料製造工場)にて、3階床板(鉄板)の溶接補修作業中、溶接のノロが階下に落ち、中3階に置いてあったビニール及び段ボールに引火したものの。溶接作業員及び従業員が放水し消火。消防により鎮火を確認。
250	火災	1	11	15	山口県	なし	工場屋外にある水洗塔排ガスブロワーの軸受付近から異音がするため、設備担当者が回転状況を目視確認していたところ、軸受部分から出火したものの。付近の従業員が水と砂により消火し、その後到着した消防隊により鎮火確認された。
251	漏洩	1	11	16	大分県	なし	装置タワーの高さ30m付近からケロシンが漏えい。量的には床を濡らす程度で、ぽたぽた漏れていた模様
252	火災	1	11	19	神奈川県	なし	屋外貯蔵タンク、許可容量46,363KLの水切り配管から、防油堤内に原油が漏洩したものの。同日7:42配管開孔箇所をブロック済み。同日9:01処置完了。
253	火災	1	11	19	愛知県	なし	工場内北東に設置された5号炉のうち、5号焼き戻し炉内から出火し、ダクト内に延焼拡大したものの。令和元年11月19日(火)3:54(鎮火・処理完了済)【本日】
254	漏洩	1	11	20	大阪府	なし	棧橋係留中の船舶へ、飲料水を補給しようとした際、誤って潤滑油の補給口に給水し、オーバーフローが発生。海上及び船舶甲板上に潤滑油と飲料水の混合物が400L漏洩した。(この内、潤滑油の海上への流出量は、約3L。)海上に流出した潤滑油については、オイルフェンスを設置し、吸着マットにより回収処理中。火災の発生なし。
255	漏洩	1	11	21	広島県	なし	タンク側板のマンホールから漏えい。(廃液 塩酸20%、チタン2%の水溶液)入口バルブ閉にして縁切りしているが、若干の漏れが継続中。残液を他のタンク等に移送できないため、現在漏えい箇所へ受けを設置し回収中。今後、タンクローリーを手配し、全液を回収するが回収完了までには時間を要す。
256	火災	1	11	22	愛知県	なし	溶断した火花が付近の物品に着火したものの。との報告になりました。従業員により消火したため、消防が確認出動したものです。
257	火災	1	11	22	神奈川県	なし	何らかの原因によりボイラー内部で火災が発生したものの。同日18:39鎮火。
258	漏洩	1	11	23	山口県	なし	巡回中の従業員が装置内の脱気塔のボトムからドラムへの送液配管からヘキサンが漏洩しているのを発見。直ちに装置を停止したことにより漏えいは停止した。漏えい量は50リットル、吸着マット等で回収済。排水系を含め、装置外への流出はなし。
259	漏洩	1	11	26	広島県	なし	一般取扱所において製品の原料(ポリマーとジメチルアセトアミド)の混合器が何らかの原因で、内部がつまり、当該混合器からジメチルアセトアミドが漏えい。漏えい量は調査中。

No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
260	火災	1	11	30	千葉県	なし	全天候バス内の屋根の溶接補修(台風15号関連)工事中、停電が発生した。降圧変圧器内のトランスが出火。水により消火。
261	漏洩	1	12	2	神奈川県	なし	タンクへ移送中、配管から塩酸が約10リットル漏洩。消防隊等により中和活動を実施。消防隊によりガス検知活動を実施。漏洩は停止中。同日21:17消防処理完了。
262	火災	1	12	3	千葉県	なし	ブライドルールブレーキパッドから出火したもの。
263	火災	1	12	3	神奈川県	なし	12月3日朝、停車中の4トントラック後輪から出火し、車載の消火器にて消火したもの。
264	火災	1	12	3	大分県	なし	高炉(銑鉄を取り出す)の熱風配管(約1200℃)の一部に何らかの原因で亀裂が発生し、熱風が漏れ、配管の保温材(グラスウール)を焼損。
265	漏洩	1	12	7	神奈川県	なし	油回収用の配管のポンプが破損し、K1棧橋上に軽油約10リットル漏洩したもの。事業者側で吸着マットにより処置したもの。同日22:53処理完了。
266	火災	1	12	8	神奈川県	なし	合成ゴムプラントのダクト及びケーブル約5メートル焼損。消防隊によりダクト表面温度の確認等を実施。同日2:56鎮火。
267	火災	1	12	8	愛知県	なし	屋外タンク貯蔵所の付属設備における温水配管から漏水があり、温水タンクの水位が低下。その結果、加熱部分が空だき状態になり火災が発生した。消火器1本にて消火済み。
268	火災	1	12	13	千葉県	軽傷2名	旧冷延工場内で、モーター据付架台を清掃中の作業員と付近でアーク溶接作業をしていた作業員2名が火傷を負った。清掃に使用していたクリーナー(スプレー缶)に引火したとのこと。
269	漏洩	1	12	16	神奈川県	なし	屋外タンク貯蔵所付属配管から重油が590リットル漏えいしたもの。同日10:33公設消防隊現場到着。10:50漏洩停止確認。11:30配管内滞油回収開始(滞油量33KL) 11:33使用制限命令発動。11:49公設消防隊引揚。
270	漏洩	1	12	16	和歌山県	なし	ソルベントドラム充填所にて、油の先出し作業中、約263Lの軽油が漏洩。漏洩した軽油の処理は完了済み。
271	漏洩	1	12	16	神奈川県	なし	特殊潤滑油調合装置の2階において、ドラム転倒式計量器で蓋が開いているドラム缶を掴んだ際、爪が外れドラム缶が転倒し、脂肪酸トリグリセライド(指定可燃物)約120リットルが漏洩したもの。同日16:20漏洩した指定可燃物回収及び清掃完了(処理完了)。
272	火災	1	12	17	神奈川県	なし	分解炉内の配管からエタンが漏えいし、火災となり保温材が焼損したもの。緊急停止ボタンを押して、施設を停止。自動的に原料(エタン)及び燃料の遮断とスチームによる置換を実施し、11:04鎮火確認。12月18日にかけて、窒素での置換を実施予定。
273	漏洩	1	12	19	広島県	なし	棧橋前にて、海上タンカーからステレンを受け入れ中に、陸上フランジ部から漏えい。漏えい量は100リットル以上漏えい(確認中)。現在も配管内に少量残っているステレンが漏洩中。(ただし海上への流出はなし)
274	漏洩	1	12	20	神奈川県	なし	水添脱硫装置の熱交換器(保温材あり)立ち上げ中にシェル側からケロシン(灯油)が地上の囲い内に流出したもの。漏洩量は調査中。(発災箇所のバルブブロック(縁切り)が完了。現在、事業所により窒素による系内バージを実施中。熱交換器内の灯油の抜き取り作業を実施中。海上への漏洩はなし。硫化水素5.5ppmを測定するも、その後検知されなくなった。)同日11:05消防処置完了。
275	火災	1	12	20	千葉県	なし	工場内の電源盤から出火したもの。消火器で消火済み。
276	漏洩	1	12	23	愛知県	なし	ローリー積場にて、移動タンク所蔵所が他物に接触し、危険物らしきもの市からの聞き取りによると「潤滑油」の可能性が高いとのこと。容器に充てんしたのち、当該容器を車両に積載しようとしたところ、容器のノズルが車両の養生ベニアに当たり、破損したことにより漏えいに至ったもの。漏えい物は吸着マット等により回収済み。
277	火災	1	12	24	神奈川県	重傷1名	熱交換器付近で火災が発生したもの。公設消防及び自衛消防隊によりターレットと大型化学高所車で計10口にて放水し、消防活動中。ガス検知活動するも可燃性蒸気は検知されず。9:07延焼防止、第一次部隊縮小、ドローンにより上空から撮影するも火災確認できず。9:19火災は鎮圧。同日10:45鎮火。熱分解された重質油(C重油相当)を冷やす熱交換器の上流の配管から流出した模様。現在縁切り中。配管内の滞油量は約22.7キロリットル。事故発生施設は、ガス化脱硫装置・ガス化部門。傷病者は病院へ搬送。
278	漏洩	1	12	28	神奈川県	なし	敷地内の芝生が50m2焼損したもの。同日10:33鎮火。